

## ● 日本の主な火山活動

口永良部島では 29 日 09 時 59 分に爆発的噴火が発生し、黒灰色の噴煙が火口縁上 9,000m 以上上がった。この噴火に伴い火砕流が発生し、新岳の北西側（向江浜地区）では海岸にまで達した。このため、同日 10 時 07 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 5（避難）に上げた。また、同日 10 時 34 分に火山現象に関する海上警報を発表した。今後も、29 日と同程度の噴火が発生する可能性がある。大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

御嶽山の火山活動は低下してきており、2014 年 9 月 27 日と同程度、またはそれを上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が継続していることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要である。これに加えて南西側（地獄谷方向）では火口から概ね 2.5km まで火砕流に警戒が必要である。

桜島では、爆発的噴火が 169 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。桜島島内の伸縮計では、1 月 1 日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続している。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。

西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒が必要である。

蔵王山では、8 日から 11 日にかけて火山性地震が多い状態となった。12 日以降、地震回数は増減を繰り返しながら少ない状態で経過している。17 日に継続時間が短く、規模の小さな火山性微動が発生した。想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね 1.2km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口付近直下を震源とする火山性地震が 5 月 3 日以降増加し、6 日には日回数が 110 回と多い状態となった。また、6 日に火山性微動が発生した。大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が継続している。大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められている。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

箱根山では火山活動が活発な状態で経過している。4 月 26 日以降増加している火山性地震は引き続き多い状態で経過している。箱根町湯本などで震度 1 以上を観測する地震は 19 回発生した。5 月 15 日には火山性地震の日回数が 442 回となり、2001 年以降で最多となった。地殻変動観測によると今回の火山活動に関連するとみられる地殻変動も観測されている。また、5 月 3 日から大涌谷の温泉供給施設で蒸気が勢いよく噴出しているのが確認されている。今後、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があると判断し、5 月 6 日 06 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）に引き上げた。大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、21 日まで断続的に噴火が発生した。3 日に振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度 1 を観測した。また、8 日に、中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする地震が発生し、南阿蘇村中松で震度 3 を観測した。地震の前後で噴煙や地殻変動の状況に特段の変化は認められなかった。中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）では、新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は減少したが、3 月中旬以前よりもやや多い状況が続いている。北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、5 日と 17 日にごく小規模な噴火が発生するなど、活発な火山活動が継続した。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要であ

る。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、5月1日10時00分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除した。

**表 1 5月31日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況（※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中）**

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	御嶽山、桜島
	入山危険	西之島※
	レベル2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、箱根山、三宅島、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	蔵王山、硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

※噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



**図 1 5月31日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山**